



# 学校だより

12月号②

自ら学び考えることができる生徒

感性豊かで思いやりのある生徒

心身ともに健康な生徒

大田区人権教育研究協力校

「みんながいる わたしがいる  
さしのべる 生きている」

令和4年12月23日

大田区立糀谷中学校

校長 小島 宏一郎

## 2学期を振り返って

## 2学期終業式校長講話より

校長 小島宏一郎

おはようございます。78日間の長い2学期が本日で終わり、無事に終業式を迎えることができました。皆さんは今学期に本当にたくさんのことに取り組み、多くのことを学びました。

9月の生徒会役員選挙に始まり、3年ぶりの連合陸上競技大会、1年生は菅平移動教室。10月には、3年生の修学旅行、学校全体で取り組む大きな行事である生徒発表会、11月には、連合学芸会（英語の部・音楽の部）や区立中学校美術展などの大田区全体の行事も開催されました。そして、3日間の2年生の職場体験もありました。部活動でも、運動部は新人戦が行われ、多くの部が素晴らしい成績を残しました。それぞれの行事や活動に目標をもって取り組み、様々なことを学び、また、たくさんの思い出も残すことができたことと思います。

特に、生徒発表会では3年生が良い見本を示し、学校全体が一体となって合唱や部活動の発表に取り組み、感動を共有することができました。3年生の合唱コンクールでは、結果はA組が最優秀賞、B組が優秀賞と順位が付きましたが、どのクラスも心を一つに素晴らしい合唱を発表してくれました。行事に真剣に取り組むことの格好の良さを下級生に見せてくれた3年生には改めて感謝します。

さて、9月の始業式では皆さんに2つのことをお話しました。1つ目は「目標をもって主体的に学ぶこと」で、2つ目は「関わりを大切にすること」です。改めて自分自身を振り返ってみてください。日々の授業を大切に、真剣に学習に取り組むことはできましたか。定期考査に向けて自分で計画を立てて進んで家庭学習に取り組むことはできましたか。また、学級・学年・部活動の仲間と協力することはできましたか。思いやりや感謝の気持ちを忘れずに人と関わることはできましたか。

学校は勉強する場所です。そして、先生や友達と関わりながら多くのことを学ぶ場です。「目標をもって主体的に学ぶこと」「関わりを大切にすること」はこれからもしっかりと意識して学校生活を送ってください。

今日の学活では担任の先生から、通知表が手渡されます。通知表には教科の評価・評定のほかに、特

別活動や出欠の記録、所見も記載されています。特に所見は、担任の先生が皆さん一人一人の2学期の生活の様子を思い浮かべながら、時間をかけて書いたものです。皆さんが、頑張ったことや課題となること、アドバイスや励ましの言葉が書いてあります。しっかり読んでこれからの生活に生かしてください。いくつか、印象に残った所見を紹介します。

「朝の挨拶はもちろん、プリントを配るとき給食をもらうときの「ありがとうございます」という挨拶にはいつも嬉しい気持ちになります。」「クラスの合唱がどうしたらよくなるか人一倍考えてくれました。」「いつも教室をきれいに整備してくれて、ありがとう。」「マスクのヒモが切れてしまった子に自分の予備のマスクを分けてあげるなど、優しい一面を見ることができました。」「日直や毎日の清掃、給食当番などの一つ一つを丁寧に取り組むことができています。」

日常の当たり前の生活にしっかり取り組んでいる生徒、他人のために進んで働いてくれる生徒、日頃から周囲の友だちに温かく接する生徒、真面目に仕事に取り組む生徒、そんな生徒が糀谷中にはたくさんいることがわかり、とても誇らしく思います。他にもいろいろな所見がありました。しっかり読んで、今学期を振り返り、3学期に繋げてください。

最後に、冬休みは学期の切り替わりであると同時に、新たな年を迎える時機でもあります。「1年の計は元旦にあり」ということわざがあります。元旦の旦の字は日の下に一本の線を引き、太陽が地平線から上がってくる朝を表しています。1年の計画は元日の朝に立てるのがよいという意味です。残り1週間に今年を振り返り、夢や抱負をしっかりとって2023年の1月1日の朝を迎えてください。

新型コロナウイルスの感染がまた広がってきました。規則正しい生活と健康管理、感染予防対策を徹底し、3学期の始業式には皆さん全員元気に登校してください。特に、3年生は進路決定の大切な冬休みです。強い意志をち、目標に向かって、諦めずに粘り強く突き進んでください。



# 人権に関する学習資料を読んで

大田区では毎年、人権週間の12月4日から10日に、小学校5年生と中学校3年生で「人権に関する学習資料」を活用した学習に取り組みます。今年度の資料の内容は、「水平社宣言100周年」、「部落差別をなくすために」、「人権課題『障害者』」、「人権課題『ハンセン病患者』」でした。今年は3年生の社会科の授業で、国の施策によって差別を受けてきたハンセン病患者について詳しく学習しました。授業で3年生が書いた感想や意見をいくつか掲載します。

☆1996年に「らい予防法」が廃止されてから、国は隔離されてきた療養所の入所者たちにおわびし、補償を行う法律を作り、名誉回復や社会復帰支援及び啓発活動等に取り組んでいます。しかし、様々な理由から施設外での暮らしに不安を感じ、退所できない方もたくさんいます。施設から退所できない方たちが感じる不安について考えてみましょう。

「元患者さんは、今でも偏見や差別が残っていることを知っているため、他人の目を気にし、自分が傷つくようなことをされるのではないかと不安と恐怖がある。」

「肉親と会えないこと、故郷に帰れないこと→つらい。出られても長い間(施設に)いて帰るところがない。」

「療養所を出ても差別されてしまうのではないかと。長く離れていた家族とまたうまくやっつけられるか。いやがらせをされる心配。他者からの目が気になる。」

☆2003年には、ハンセン病療養所の利用者であることを理由にもホテルから宿泊を拒否される事例がありました。また、このとき抗議した元患者たちに非難や中傷の電話が殺到しました。現在もハンセン病に対する理解不足と偏見・差別が残っています。二度と同じ過ちをしないためには私たちはどのようなことに気をつければよいか書きましょう。

「まず正しい知識をつけることが大切だと思った。正しい知識がないということが、差別につながるのではないかと思った。」

「困っている人がいたら助けるようにする。同じ人間としてこれは当たり前なことだと思います。元感染者の人のために、もっとこのことを教育として取り入れるべき。」

「正しいことを知らずに差別するのではなく、きちんと調べる。人を偏見で差別することを当たり前にしない。」

「ハンセン病にかかり差別され苦しい人生を送った人々の気持ちをよく考え、しっかり理解し、人にされていやなことは自分もしないということをたくさんの人に伝え、自分も気をつけるようにする。」



## 生徒の活躍の記録から

### 【パソコン部】

**FIRST@LEGO@Leage Challenge2022-2023**  
予選大会(東京会場)  
Breakthrough Award (ブレイクスルー賞)

シーズンテーマ(今回は「エネルギー」)のプレゼンテーションとロボット競技等によって勝敗を競う国際大会の予選に出場し健闘しました。

### 【社会を明るくする運動意見発表会】

(12月3日(土) 萩中集会所)

意見発表会 感謝状 3A [ ]  
題名「同調でも共調でもない協奏」

当日は、生徒会役員の白井愛姫さんと増澤碧さんも運営ボランティアとして受付業務を担当しました。また、佐藤さんの作文は先日配布した「大田区保護司会第四分区ひろば」に掲載されています。ぜひお読みください。

### 【大田区小中学校人権啓発作品展】

#### ポスターの部

- 3C [ ] 「それぞれの色がある」
- 3D [ ] 「1人1人に  
それぞれのいろ」



#### 習字の部

- 1B [ ] 「個性」
- 1B [ ] 「博愛精神」



#### 標語の部

- 2A [ ] 「一人一人が違うから みんなが輝ける」
- 2D [ ] 「生まれては その瞬間から授かった 命と人権 共に守ろう」



FLL Challenge



社明意見発表会

